

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
整形外科	藤岡 文夫 (AM)	(手術日)	松原 光宏 藤岡 文夫 (PMは装具) 加藤 博之 ※1 (非)		藤岡 文夫 松原 光宏	
小児外科	好沢 克 (AM) 百瀬 芳隆 (PM)	高見澤 滋		好沢 克 (AM) 町田 水穂 (PM)	町田 水穂 (AM)	
眼科			非常勤		非常勤	
総合診療部	総合診療	石井 栄三郎	西村 貴文 石井 QOL (PM)	川合 博 (AM) 関口 幸男 (PM)	竹内 浩一	小林 法元
	内分泌		竹内 浩一			
	血液・腫瘍・免疫	川合 博 (AM) 吉川 健太郎 (PM)	小林 法元	石井 栄三郎	西村 貴文 伯耆原 祥 (AM) (非)	吉川 健太郎 (AM) 山崎 和子 (PM) (非)
循環器科	原田 順和 坂本 貴彦 (AM)	安河内 聰 瀧間 浄宏	坂本 貴彦 (AM)	安河内 聰 梶村 いちげ	瀧間 浄宏 梶村 いちげ	
北棟外来	脳神経外科	重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)	重田 裕明		重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)	
	泌尿器科	西澤 秀治 (AM)		西澤 秀治 (AM) 皮膚・排泄ケア外来 (PM)		西澤 秀治 (AM)
	小児外科					高見澤 滋 胃腸管理外来 (PM) 皮膚・排泄ケア外来 (PM)
	総合診療部 新生児フォローアップ	三ツ橋 偉子	佐野 葉子	中村 友彦	中村 友彦 (AM) 三ツ橋 偉子 (PM)	佐野 葉子
	形成外科	野口 昌彦 近藤 昭二	近藤 昭二 (PM)	野口 昌彦 近藤 昭二 (レザ*)	野口 昌彦 (レザ*) (PM) 近藤 昭二 (PM)	野口 昌彦 (PM) 近藤 昭二 (PM)
	麻酔・集中治療科	大畑 淳 (AM)				
	皮膚科			芦田 敦子 (非) AM		
	神経科	平林 伸一	平林 伸一 平野 悟	笛木 昇 平林 伸一 (PM)	平野 悟 (PM)	平林 伸一 平野 悟
	精神科 (こころの診療科)				原田 謙 (非) PM ※2	
	遺伝科	川目 裕		川目 裕	川目 裕	川目 裕 (AM)
	耳鼻いんこう科		工 穰 (非) (PM2:00~5:00)			
	循環器科 (胎児心臓外来)				瀧間 浄宏 (PM)	安河内 聰 (AM)
	産科	菊池 昭彦 (PM) 高木 紀美代 (PM)	菊池 昭彦 高木 紀美代	菊池 昭彦 高木 紀美代	菊池 昭彦 (PM) 高木 紀美代 (PM)	菊池 昭彦 高木 紀美代
	リハビリ テーション科	笛木 昇 原田 由紀子 (非)	笛木 昇 (PM) (摂食嚥下外来)	河野 千夏 (非) 平林 伸一 (AM)	笛木 昇 平野 悟 (AM) 原田 由紀子 (非) (AM)	三沢 朋子 (非) (PM装具)

※1 整形外科の加藤医師は隔月第3水曜日のみです。 (非) …非常勤医師  
 ※2 精神科(こころの診療科)外来の初診を受けるには、予め総合診療外来または神経科外来の受診が必要となります。  
 ★診察時間：午前9時～午後4時 休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始  
 ★受診には、原則として予約が必要です。また、初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。  
 予約受付時間：8時30分～17時15分 月曜日～金曜日(土・日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

予約専用電話0263-73-5300

詳しい受診案内はこども病院ホームページにも掲載しています。 <http://www.pref.nagano.jp/xaisei/kodomo/>



長野県立

2008年9月10日発行 No.12



# こども病院だより

Contents

ご挨拶……………1  
 こども病院での小児医療後期研修  
 推進事業について……………2  
 放射線科外来検査開始について……………2  
 19年度決算の概要……………3  
 外来 医師担当表……………4

**長野県立こども病院理念**

—こどもは社会に潤いを、未来に希望を与える宝物です—  
 長野県立こども病院は、周産期・小児の専門医療を、  
 全人的な総合医療として提供し、未来あるこどもたちの  
 健やかな育成を目指します。



## ご挨拶

院長 宮坂 勝之

例年になく北アルプスの山々の残雪が少なく感じる今年ですが、これも連日のように続いた暑い夏の影響でしょうか、気がつけば病院周囲の水田の稲には黄金色の雰囲気漂いはじめ、信州は着実に稔りの秋に向かっていきます。国の医療費削減政策の骨太方針続行は覆らず、県財政も厳しく逼迫している現状で、人的、財政的な医療資源の効率的な利用が求められていることは、就任以来職員に説いてきたところです。これまでに、こども病院が自力で経営健全化を行なうことの重要性を職員一同が良く理解し、一致して県からの繰入金的大幅な削減を克服してきたことに、県、県医師会、そして他県の行政担当者からも評価の声をいただいているところです。

しかし、経営健全化の方向性が評価されているとはいえ、まだ収益の3割、15億円を越える公的資金の投入で病院の運営が成り立っている事も現実です。患者数が増加しつつあるとはいえ、小児救急患者やミドルリスク妊婦の積極的な受け入れ、そして小児総合診療体制充実により更に利用しやすい病院づくりに努めている現状をもっと県民、医療関係者に知っていただく必要性を強く感じています。それが当院と社会が一体となって在宅医療や介護へのシームレスな移行も実現させる原動力になると考えております。

4月には、当院のようなこども専門医療施設の役割に価値を持たせる形での診療報酬改定があり、当院の小児医療が生き延びる糧を与えられたと思います。その趣旨を最大限に活かすためとして、固定化した病床運用ではなく、病院全体をいわば一つの病棟と考えた柔軟かつ効率的な運用が求められました。7月にはその趣旨に沿った病床再編を行い効果が出はじめています。病床の流動的な運用の歴史は浅く、患者やご家族だけでなく、職員にも戸惑いがあることは事実ですが、病院全体が一つのチームとして機能する時代に向けて避けて通れない改革と考えております。

そのチーム医療の観点では、当院は診療科間、あるいは職員間でのコミュニケーションの不十分さが指摘されてきました。患者情報の共有の文化は特に重要だと考えており、インターネット、イントラネットを含めたITを活用した医療情報、業務情報の共有の推進によりこれを達成したいと考えています。具体的には電子カルテ、画像参照、文献情報検索、そして院内掲示板機能の導入を進めます。優秀な人材を集め、高度の小児医療を安全に提供する目的では、当院の取り組み開始は遅きに失した感さありますが、安全でより良い小児医療確保のために、職員一丸となってすすめて行く所存です。

県立病院の経営形態が見直され独立行政法人化に向かう気配です。独法化は流動的で効率的な資源の運用を目指す



## 第2回こども病院祭を開催します

開催日時：平成20年10月4日(土曜日)9時30分～15時まで  
 熱気球や動物とのふれあい、音楽演奏、大道芸やマジック、特別対談、そしてカリヨンに合わせた合唱など色々あります。医療体験のコーナーもありますよ。  
 皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

※雨天の場合に一部のイベント内容が変更になる場合があります。  
 また、駐車スペースが少ないので、自動車等はなるべく乗り合いでお越しください。  
 詳しい内容等につきましては、こども病院ホームページ等で随時お知らせいたします。



意味での利点は多いことから、当院がすすめてきた改革と同一線上にあります。しかし、その利点を活かし良い医療にするためにも職員一人一人が従来の護送船団公務員意識からの脱皮が何よりも重要であり、同時に出発前の十分な枠組みの整備が求められます。曲がり角にある医療界ではありますが、こども病院は既にその対応策としていくつかの先手を打ってきたと考えております。

昨秋設置された時計台のカリヨンからは、夏のシャボン玉からふるさと、そして大きな古時計へと季節を刻む音色が響いています。これからもそのカリヨンとともに長野県のこどもの健康を念じて職員一同がんばってまいります。



## こども病院での小児医療後期研修推進事業について

副院長（臨床研修担当） 田中 哲郎



平成 20 年 4 月より当院では、「後期臨床研修体制を整備・充実し、高度小児病院の特徴を生かした魅力あるカリキュラムを研修医に提示することで、全国から小児医療を希望する研修医を積極的に受け入れ、さらに、研修期間中、他の医療機関へ派遣することで不足する県内の小児科医確保の一翼を担うとともに、研修終了後、県内に定着する医師の確保を図る」ことを目的に、小児医療後期研修推進事業がスタートしました。これは深刻化する県内の小児科医不足による小児医療水準の低下を防ぎ、長野県の子どもたちと保護者が安心できる小児医療体制を維持するための事業です。若い小児科医を育て県内に定着させ、医療機関がその役割を分担し、県内の小児医療を充実することにより、こども病院が高度小児医療の拠点施設として、一般の医療機関では対応の困難な高度で特殊な小児医療の提供と周産期医療の拠点である総合周産期母子医療センターが、出産前後の母体、胎児から新生児に至る一貫した高度専門医療を提供する役割を果たし、小児医療をより効率的にするためにも必要なことです。

先日、当院で研修している医師全員と面談を行いました。研修医の研修目的や考え方は多様でしたが、現在の若い医師に共通する考えは、症例が豊富で総合的に勉強になることが研修病院を選ぶ大きな要因だと思われました。この事

からも若い研修医が希望する施設はごく限られているのではないかと感じられ、多くの病院、地域で医師確保に苦労している現状が垣間見られました。

研修のためには机上のカリキュラムだけでなく、多くの症例が必要です。こども病院は高度の医療を提供しており、重症患者の診療、研修するには適していますが、小児科の研修開始時に必要とされる一般的な疾患を診療する機会はそれほど多くはありません。研修医の研修には一般的な疾患と重症患者の診療の両方が必要です。この事からも、研修提供側にも役割の分担が必要と思われる、こども病院だけで若い医師の研修を完結すると考えるより、県内の医療機関が一つになって小児科医の研修を行ったほうがより良い医師を育成できます。これには医師会、小児科医会、信州大学を始め、多くの医療機関との連携がなければできません。関連医療機関の皆様の御協力をお願いいたします。

今年度、臨床研修医を対象としたセミナーを開催しています。県内の臨床研修指定病院からも参加できるよう案内をしており、今後も様々なご意見をいただきながら事業の充実を図り、県内に優秀な小児科医を確保し、子どもたちに更により医療を、そして保護者にも安心してもらえる医療体制を構築したいと考えています。

## 放射線科外来検査開始について -X線 CT、MRI の検査受託-



放射線科では、本年5月よりX線CT（コンピュータ断層撮影）とMRI（磁気共鳴画像診断装置）の地域医療機関からの検査外来受託の取り組みを初めました。子供に限らず幅広い年齢層の検査を受け入れています。検査は依頼する医療機関が電話予約で受診日を決めます。予約当日紹介状・保険証等を持参していただきます。初診の場合来院した患者は「患者・地域支援室」で受付をしていただいた後、放射線科医師から検査についての説明を受けて検査に臨みます。検査終了後患者に当日のフィルムを渡します。検査結果（読影報告書）は1週間以内に紹介医療機関に郵送します。検査枠としてX線CTは火曜日・金曜日、MRIは金曜日を設けています。詳細については放射線科までお問い合わせください。



## 19年度決算の概要

弾力的な看護配置の工夫や効率的な病床運営などにより、平均在院日数の短縮や新入院患者の増加を図りました。その結果、入院単価の高い病棟での患者数の増加などにより、患者数は前年並みながら入院収益は前年度を上回りました。また、総合診療部の体制拡充による救急外来への積極的な対応を行った結果、外来では大幅な患者数の増加となっています。費用面では、南棟屋根の全面改修をはじめとした、開院以来行われていなかった大規模修繕を行う一方で、超過勤務の縮減、委託契約内容等の見直し、材料費の価格引下げ交渉、光熱費の削減を始めとする省エネルギー対策などの経費削減への取り組みを行いました。

これらの結果、県からの一般会計負担金が前年度に比べて3億3千万円余り削減されたため純損益は赤字となったものの、赤字幅は1千万円余りにとどまり、大規模修繕等による経費の増がある中で、医業収支比率を2ポイント改善することができました。

## 開院からの収支額の推移

（平成5年～平成19年 対前年比＝平成18年/19年）

